

三中だより

令和3年度 2月号



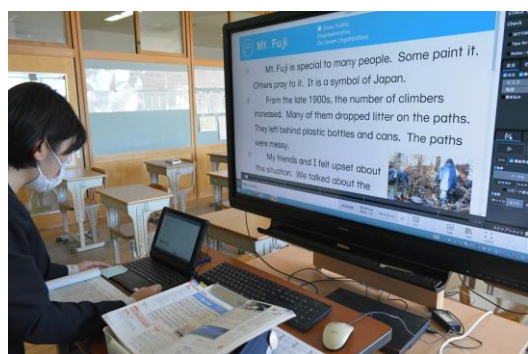
令和4年2月12日発行
荒川区立第三中学校
(学校通信 No. 17)
校長 小柴 憲一

オンライン授業期間の延長に伴って

2月8日(火)に情報配信メールでお知らせしたとおり、まん延防止等重点措置期間の延長とともにオンライン授業期間も延長することとなりました。保護者の皆様には、引き続きご協力をいただくことになってしまいますが荒川区教育委員会の分析のもとによる判断につきまして、ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

このことに伴い、①定期考査は、学校に登校して実施すること、②1年生の校外学習は、3月4日(金)から延期することにつきましては、別途お知らせしたとおりです。

定期考査は登校して学校で実施いたしますが、評価・評定は定期考査だけで算出されるものではありません。オンライン授業への出席状況や取り組む姿勢、指定課題の進捗度、提出課題の内容等も評価材料となります。したがって、これからも実施される午前もしくは



は午後の3時間の授業は全て評価材料になるということ念頭に、お子さまに遅刻することなく参加し、授業に意欲的に取り組むようお伝えください。場所は離れていても、参加しているかいないかは、オンラインのホストとなっている授業者にはすぐに判別できますので、家にいるからといって気を緩めることなくタブレットに向かってもらうことを期待します。また、日々の連絡につきまして各学級のClass roomのストリーム上などで確認されていない事例が見受けられます。毎日頻繁に見るようにさせてください。

さて、オンライン授業が始まった2月の第1週あたりは、校内で感染した可能性のある陽性者の連絡がありました。その後は感染者の連絡はほとんどなく、また連絡があっても家庭内感染であり、当然のことながら学級閉鎖の対象として計算される人数には該当していません。本校では、未だに自宅待機の指示期間となっている子どもはごくわずかであるとともに、あと数日で全てが解除になる状況まで来ています。また、荒川区教育委員会からの情報では、小学校でも感染者の確認はあるものの、その人数は大幅に減少していることが分かります。心配な点としては、学習塾やクラブチームなど、学校をまたいで参加する集団の中で感染者が拡大する事例が都内においてあるということです。オンライン授業期間は、定期考査のための登校や、昼食の準備のための買い物などの特別な場合を除いて、夕方まで自宅で学習することとなっています。しかし、その後の時間について「友達と会って遊ぶ」などの、オンライン授業の目的に反することでない以上、学校として禁止することはできません。是非とも、ご家庭の判断で、必要な外出、緊急な用事であっても、十分な感染防止対策をとっていただきますようよろしくお願いいたします。

特に、3年生は21日の月曜日が都立高等学校の学力検査となっています。

ご家族の方は「まずは、無事に試験会場に行ってほしい」という願いと不安で一杯かと思えます。3年生のお子さんがあるご家庭では、保護者の方をはじめお子さんの兄弟まで行動に制限を与えている場合もあるかと思いますが、1・2年生の保護者の方もご自身のお子さんがもし受験生だったらと思えば、そのつらさは容易に想像ができるはずです。その状況を、全ての保護者の方がご理解していただき、3年生の子どもたちとその保護者の方々に応援する気持ちをもっていただけると幸いです。

前を向いて進むことだけを考えろ！ 自分を信じてあげろ！

オンライン授業期間中のことではありましたが、2月2日に都立高等学校の推薦に基づく選抜の可否発表がありました。昨年同様、合格率は約25%で、分かってはいたものの「やはり狭き門だな」と改めて痛感しました。4人に3人は不合格となり、残念な思いの程度は子どもによって様々だと思います。中には、精神的ダメージが大きいあまり、都立の学力検査のことまで考えられないといった子どももいたことと思います。しかし、保護者の方からの励ましの言葉を始め、教員も親身になって相談をし、不合格になった子どもたちは、再び21日に実施される学力検査に立ち向かうこととなりました。

現在、都内私立高等学校の受験が続いています。都立高等学校の推薦に基づく選抜だけでなく、不合格を経験するということは誰でも気持ちのいいものではありません。しかも、複数の不合格体験は、先行きの不安をあおります。

しかし、ここにきて大切なことは、「この学校を受験する」と決断した自分自身に価値があるということです。保護者の皆様は何度も経験があると思いますが、社会人は、厳しい状況下でも意思決定しなければならない時があります。子どもたちは、今、それをしているのです。ですから、決断したこと自体を賞賛してあげてください。

そして、意思決定したからには、前に進むしかないということも、保護者の皆様ならお分かりかと思えます。今できることは、決断した自分を信じて、ひたすらに前に進むことです。この先、こうなったら、ああなったら・・・と思ってしまう気持ちは分かりますが、それを考えたからといって何か解決するわけではありません。

お子様の心情を傾聴してあげ、「・・・が心配なんだね。そりゃそうだよね。」と同意を示したうえで、気持ちがポジティブになるペップトークをお願いします。お子様の性格などにより、ペップトークは異なるでしょうが、以下のような言葉かけはいかがでしょうか。

- 決断したあなたが素敵なんだよ。結果は別問題。
- 合格したいという思いが強ければ強いほど不安になるものだよ。
- 緊張するのは本気の証だよ。とてもいいことだ。
- これまでよく頑張ったよ。あとは出たところ勝負。
- 前を向いて進むことだけ考えろ。
- ほかの人は関係ない。自分の力を出し切れればいい。
- あなたが信じないで、誰があなたのことを信じてくれるの。
- どんな結果になってもお父さんは応援するよ。

保護者の方が受験するわけではありません。だからもどかしくなるのですが、私たち大人にできることは、子どもたちが、最大限の力を発揮できる環境を作ってあげることだけです。保護者の方も不安な日々が続くかと思いますが、あともう少し、頑張りましょう。

心身ともに大きくなった1・2年生 ～校外学習で最後の評価～

1・2年生は体が大きくなっただけではなく、言動も、それぞれ1つ上の学年に限りなく近づいてきました。保護者の方も、ご自宅でお子様の体の成長だけではなく、言うことや行動することが変わってきたと感じられていることと思います。その中には、保護者の方の意に反することもおありかと思いますが、それは、三中だよりの前号の「子育てについて ～中学生～」をお読みいただき、心を静めていただきたく存じます。それらをひっくるめて成長といいます。

学校では、例えば1年生は時間で動くことができるようになり、無言を保つべき時は誰も一言も話さなくなりました。2年生は、学習に取り組む姿勢がより前向きになるほか、生徒会活動などの

自治活動では「学校の中心となって活躍する」という自覚が高まってきました。三組は、みんなで生活していく態度が身に付くとともに、笑顔で友達と接して学級の雰囲気をもっと温和にしようとする事ができるようになりました。

これらの成長は、これから実施される校外学習で最後の評価をすることになります。

2月18日(金)	三組	横浜みなとみらい
3月内で日程は調整中	1年生	お台場
3月10日(木)	2年生	川越

三組は、カップヌードルミュージアムの展示を見学した後、体験学習をします。そして、2千円以内のお小遣いで、昼食をとり、お土産を購入するための支出計画を自分で立てて行動しなければなりません。その後は、よこはまコスモワールドの大観覧車に乗り、地図上の横浜の位置を考えながら横浜の景色を一望します。公共におけるマナーを守れるか、自分で考えてものづくりをしたり、行動したりすることができるかが求められます。

1年生は、株式会社「タカラッシュ」が企画する謎解きゲームに参加します。昔のオリエンテーリングのように、班で地図を見ながらポイントに移動し、そこで課されたクイズなどを班員で知恵を出し合ってクリアして、時間内にゴールしなければなりません。班員がまとまって、楽しみながらもルールを守って行動することが求められます。

2年生は、川越で事前に立てた計画通りに行動します。班の中にはそれぞれ役割があり、一人一人が自分の役割を果たし、計画通りの行動をすることができるか、また、万が一、計画通りに行動できないことが予想されたときに適切な判断と行動をすることができるかが求められます。12月に実施した、鎌倉校外学習で「失敗をした」と自己反省している人たちにとってはリベンジの機会となります。

日々の授業が大切なのは当然のことですが、「社会を構成する一員としての自覚を高める」ためには、活用しない知識や技能だけをもっているだけでは仕方がなく、それらを「生きて働く知識や技能」に変換して、実践する場を設けることも教育活動であり、そこで一人一人や集団を評価することができます。

心身ともに大きくなった1・2年生を、どのように評価することになるのか楽しみであるとともに、私たちの今までの指導を振り返るきっかけにもしてまいります。

ご家庭では、三組・1年生・2年生でそれぞれ配布されるしおりをご覧になって、持ち物の準備などにご協力くださいますようお願いいたします。

継承されない伝統もある

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の第三中学校の教育活動を知っているのは、現在の3年生だけです。

したがって、校長としては、3年生が1・2年生に全ての教育活動、特に子どもが主体となる活動に取り組む姿勢や成果などを継承して卒業して行ってほしいと考えていました。

例えば、三中の合唱を知っているのは3年生だけです。3年生が1年生のときに合唱コンクールを経験して、2・3年生の合唱に取り組む真剣さや合唱そのものの完成度の高さに感動したことと思います。それを知っているから、まん延防止重点措置が適用される前の3年生の音楽の授業で、卒業式の式歌を完成させるためのパート練習に取り組んでいる姿勢や、全パートを合わせたときの美しさを含めた表現力は、1・2年生の練習や出来映えとは全く比較にならないほど素晴らしいものでした。つまり、今の3年生には三中の合唱の伝統が継承されていたのです。その3年生の合唱を、卒業式で1・2年生が聴いて見ることにより、1・2年生に三中の合唱を継承してもらいたいと強く願っていました。

しかし、現在のところ、今年度の卒業式も国歌斉唱は歌わないこととされており、残念ながら1・2年生に3年生の合唱を聴かせ見せて、三中の合唱の伝統を継承させることは困難な状況です。

来年度は、年間行事予定に、この2年間実施できなかったクリーニング・プロジェクト、略してクリPや汐入小学校・汐入東小学校を訪問して行う3年生の合唱の披露やあいさつ運動を位置付けますが、これらも知っていたのは現在の3年生だけです。

継承されなかった伝統はどうするのか。

その解は明らかです。新たに作り上げるしかありません。そして、その基幹となるのが新3年生であり、特に生徒会本部が担う責任は重大です。過去のやり方を調べてその方法にこだわり続けるのではなく、新たに創造していくつもりで、以前を上回る「合唱」「クリP」「あいさつ運動」などを作り上げていく覚悟で臨んでいく必要があります。

大丈夫です。現在の2年生が、様々な問題を解決し課題をクリアしてきた様子を見て、「確かに一人一人が成長し、ベクトルが同じ方向に向かい、組織としての力が向上している」と、校長として評価しています。

保護者の皆様、新3年生や生徒会本部が新たに作り上げる伝統を楽しみにしていただき。来年度、新型コロナウイルス感染症の影響がどのようになるのかは全く分かりませんが、全ての教育活動が実施できるものと想定して挑んでいく所存です。

さて、伝統が継承されなかったのは教育活動だけではありません。

PTA活動も同様ではないでしょうか。PTAの組織の場合、役員だった方が顧問として位置づく組織構成になっていますので、知っている方に聞くことはできますが、実働するのは現役のPTAの方々ですので、入学式・卒業式における活動を始め多くの活動において戸惑うことになると思います。校長が口出しすることではないかもしれませんが、過去にとらわれすぎて疲弊するのではなく、新たな方法も導入するつもりで会長を中心に組み組んでいただければ、学校としてはそれだけでも十分助かります。「2年間やってなかったんだから仕方がない」と割り切ることも時には必要ではないかと、私は考えます。

お知らせ

- 第25回「図書館を使った調べる学習コンクール(全国)」で以下の成績を収めました。

賞	氏名	学年	題名
優良賞	濱田 莉々果	3年	甘いコーヒー苦いコーヒー ～南北格差とフェアトレード～
奨励賞	伊藤 颯真	3年	質の高い教育を
佳作	小原 ゆい	2年	二度と繰り返したくない戦争 ～アジア・太平洋戦争を知る～
佳作	磯貝 優里	3年	どっちが薬か毒か分かりますか？ ～質の高い教育をみんなに～
佳作	小林 千紗都	3年	すべての人に安全な水とトイレを
佳作	中村 心	3年	世界の教育問題 ～質の高い教育を目指して～
佳作	五十嵐 遥花	3年	ジェンダーについて 知りたい！
佳作	村上 果歩	3年	命を支える水
佳作	三宅 陽菜子	3年	世界の妊産婦と赤ちゃんを救え！
佳作	渡邊 愛果	3年	世界の飢餓問題 ～飢餓をゼロに～

- 荒川区読書感想文中学校の部で以下の成績を収めました。

優秀賞 花井 遥香(3年) 題名「魔女の愛」

- 令和3年度「あらかわ人権標語」で以下の2名に感謝状が贈られました。

南 來天(2年) 標語:「この世の人々には 生まれもっての人権がある。

あなたにも、となりにいるあの子にも。」

飯田 椋介(2年) 標語:「ありがとう 心を込めた言葉には

笑顔も一緒に ついてくる」